

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 226

政策体系	14	事業分類	施設管理費	所管部局	福祉部 健康課
会計	一般会計	科目	3. 民生費 - 1. 社会福 - 3. 障害者 現年		
事業名	発達支援センター管理運営費				
細事業名	発達支援センター管理運営費				
評価表作成者				市民福祉部 社会福祉課	高橋 伸夫

1. 事業の概要

専門医師等による発達・心理や言語について、保護者や保育所等、関係機関からの相談に応じ、障がいを早期に発見し、適切な指導、助言を行うための「発達支援相談事業」及び発達障がいや知的障がい、身体障がいのある幼児を対象に生活習慣やコミュニケーション能力を育む「児童デイサービス事業」並びに放課後活動の場を提供し、見守りや日常的な指導・支援を行う「日中一時預かり事業」の3事業を取り組む。

2. 事業の目的と必要性

①施策で目指す目標との関連付け

「南丹市障害者計画」で掲げている、“障がいのある子どもをいきいきと育む”ため、障がいの早期発見と早期療育体制の充実、保育や教育の充実、発達障害などの理解と支援の充実、放課後活動等の充実、自立と社会参加のための支援に具体的に取り組むための施設として運営する。

②事業を実施する必要性

障がいのある子どもたちの将来の自立と社会参加につなげるための支援施設として、また、南丹市の子ども達が安心して健やかに育っていく拠点として必要である。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円		55,115	28,836	34,185	39,552	31,644	31,644
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円		0	6,043	8,534	9,159	9,159	9,159
財源内訳								
使用料・手数料等	千円		0	0	270	180	150	150
国・府支出金	千円		8,544	9,498	11,180	0	0	0
地方債	千円		41,100	0	0	0	0	0
一般財源	千円		5,471	19,338	22,736	39,372	31,494	31,494
職員等の従事人員	人/年	—	0.70	3.80	5.85			
人件費	千円	—	5,455	18,628	24,813			
事業費総額	千円	—	60,570	41,421	50,464			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。

※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

※次世代育成支援対策交付金 1,288,000円 京都府障害者自立支援特別対策事業費補助金 1,500,000円 施設電気使用料 269,556円

4. 主な事業費の内訳

運営委員報酬	74,840円	事業委託料	17,428,000円	役員費	226,444円
業務委託料	368,184円				
臨時保育士賃金	356,040円	賃借料	242,970円		
医師等雇上報償費	3,231,000円	備品購入費	1,904,450円	職員旅費	118,000円
負担金補助	72,000円				
管理運営経費	1,629,730円	嘱託職員賃金	8,533,628円		
歳出合計	34,185,286円				

5. 事業結果の概要

南丹市子育て発達支援センター 利用件数	
1. 発達支援相談事業	延べ718件（実件数475件） 園巡回相談数184件
2. 児童デイサービス事業	延べ利用者数956名（年間実利用者数217名）
3. 日中一時預かり事業	延べ利用者数1,125名（年間実利用者数132名）

6. 活動の詳細

児童デイサービス事業		
小集団の中で、一人ひとりにあった療育を行うとともに、その子の笑顔を引き出し”やる気”と”自信”をつけ自分らしく生活していく力を育てる。	平成22年4月から平成23年3月まで	延べ利用者数956名（年間実利用者数217名）
日中一時預かり事業		
発達や知的・身体面などの障がいのため、日常生活で支援を必要とする小学生以上の児童を対象とし、放課後や長期休暇中の活動の場を提供し、見守りを行うとともに日常生活にかかる訓練など支援を行う。	平成22年4月から平成23年3月まで	延べ利用者数1,125名（年間実利用者数132名）
乳幼児健診との連携		
乳児前期健診から3歳児健診もすべての健診に、発達支援センターの心理士、乳児後期健診に作業療法士がスタッフとして参加	平成22年4月から平成23年3月まで	保健事業で結果報告
発達支援相談事業		
発達に心配のある子どもの健やかな成長を手助けするため、医師や心理士、作業療法士、言語聴覚士などが相談に応じ、個々の状況に合わせた支援を行う。	平成22年4月から平成23年3月まで	発達相談のべ224件（実件数164件）作業療法相談371件（実件数216件）言語相談85件（実件数68件）発達・発達支援クリニック38件（実件数27件）
発達障がい支援講演会		
発達障がい支援講演会（ニキ・リンコ先生、浅見淳子先生の講演「モンダイな想像力と身体感覚」）	平成22年6月23日	参加者 130名
保育所・幼稚園巡回相談		
保育所・幼稚園巡回相談 保育所・幼稚園での子どもたちの困りごとに専門的な立場からアドバイス・支援を行った。	平成22年6月28日から平成22年11月10日	延べ21回保育所巡回を実施 延べ184名
遊びの教室		
発達・発育に問題を抱えている子どもや、育児不安の高い保護者に対して小集団の遊びを通して育児支援を行う遊びの教室に、心理士・作業療法士が参加した。	平成22年4月から平成23年3月まで	保健事業で結果報告

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

障がいのある子どもたちの将来の自立と社会参加につなげるための支援施設として、また、南丹市の子ども達の健やかな成長を支援する施設として重要な事業であるが、利用者の増加に伴い、今後の運用等について検討していく必要がある。課題等を整理し、運営委員会で検討いただく。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

発達支援センターの管理運営のあり方について議論した。
障がいのある子どもたちの将来の自立と社会参加につなげるための支援施設として、また、南丹市の子ども達の健やかな成長を支援する施設として重要な事業である。
今後、より充実した施設運営となるよう運営委員会において協議検討しながら運営する。

■平成21年度の所属長評価

①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点
南丹市子育て発達支援センターを開設するため、開発許可申請の内容、施設改修の内容、事業の内容について議論した。
②当該事業のアピール事項
障がいを早期に見出し、必要な支援を行うため、「発達支援相談事業」、「療育事業」、「日中一時預かり事業」の3事業を一体的に行う。
③反省点、今後の展開・方向性等
20年度の繰越事業として、屋根の塗り替え、外構工事を実施する。